

特116

943

家子女圖

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



特116

943





一
路
子
易
理
子

德
子

壬戌子夏十日

紫雲山房德老





草書

今世士心之



廣園之為老式所

廣園之為西大者以其法老制者如梅川

王有在卦于坤而諸

明法之帝嘗係率召為神志為教而

亦法則名同類於佛神間為大業之蓋

之、物也如有陰物立以造化自然之理而

若物由於理而其形偽故雖一城一邑不若

亦有規矩其知之者極神於其美道

或、有極川王有為石回法誠有故如注

中門人欲得其法者書刊以在曰廣園為

是式承活者東城大抄教之性如德人教

法法者其在備焉且其乾坤自在象理和

合廣穿物也以至子月日時內教之微又皆一

明形之指學門人由以守規矩者物之象

則入若象之域之故為難如抑近來未生派

者其法法非古辨於其正而已書

成一之以為序大正十一年秋海國抄本德





三才三本各得其所

大正十一年

名不虛傳
經年林之百也社



若松



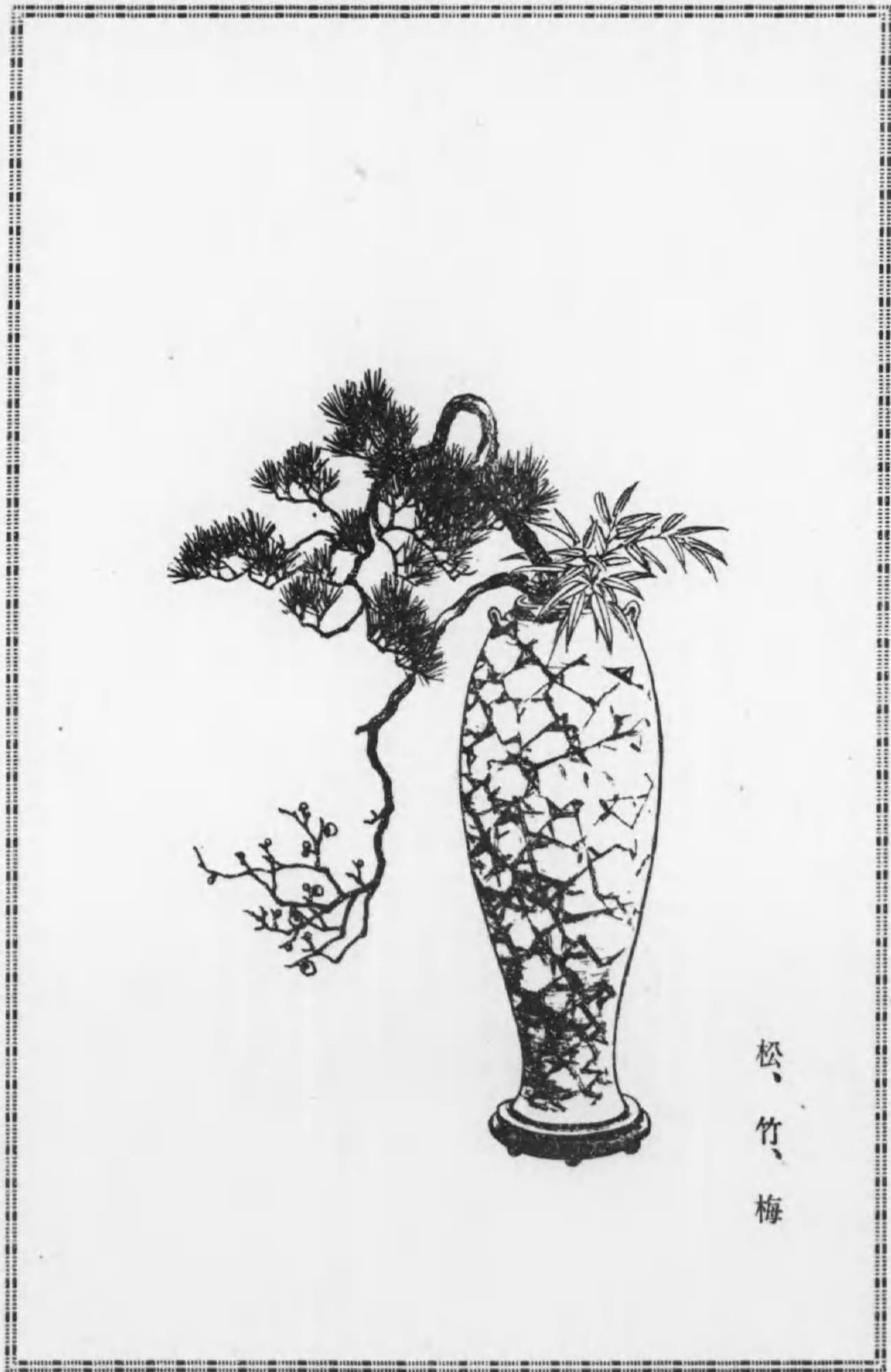
館柳



竹にれいし

梅水くまり





松、竹、梅



水仙



葉蘭うらだえ



松、竹、梅

梅
沓
船



夫
E
E
虎
s

米
柳
大
い
け



孝
生
正
源
五



梅、竹、福壽草、止発なふし



南天、はい杉、水仙



松、梅、猫柳、菊、水仙



きやら、止めなごし



松、梅、蘭、赤しや、葉牡丹、萬両、つゝじ



葉蘭のふわけ

けいゝん杉止めなのし



紅梅、ふき



菜の花横すゐた



はいびやく杉止莞なのし

白
桃



朝
鮮
ま
き



はいびやく杉、よもごお宿船



さくらぼく添



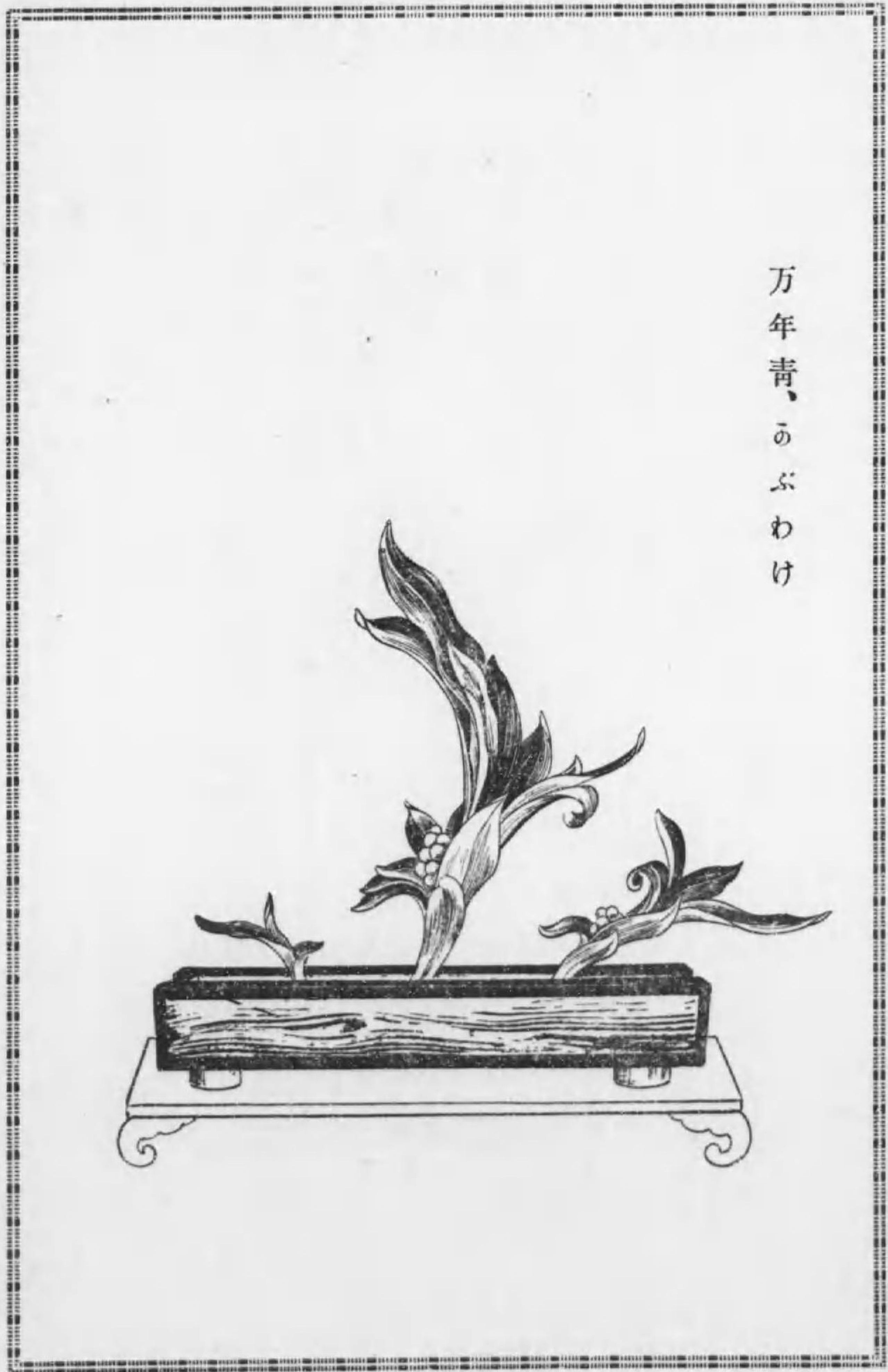
寒椿用なびし



木蓮華、山蘭



藤のけ松床柱



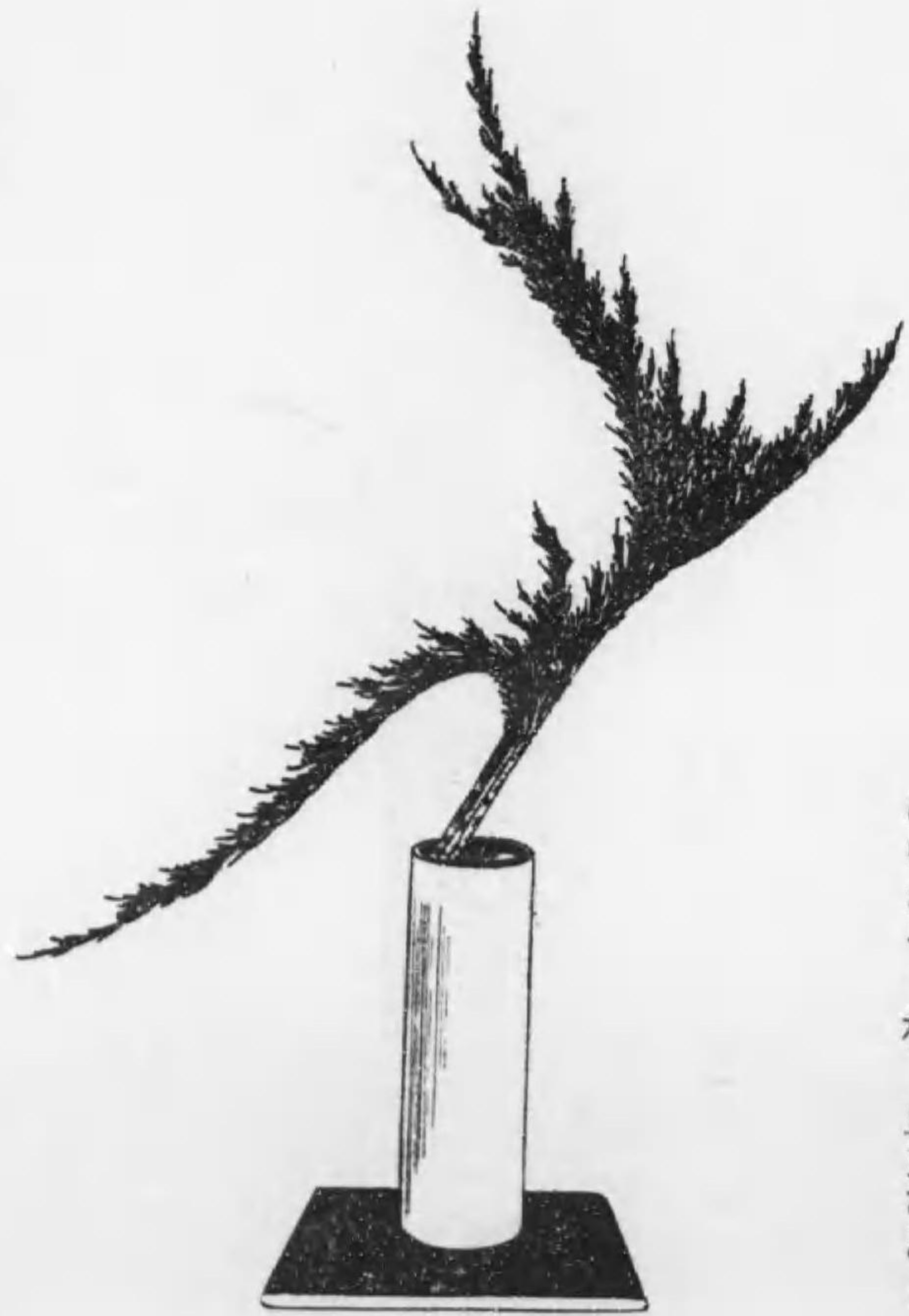
万年青、あぶわけ



牡丹



銀まき



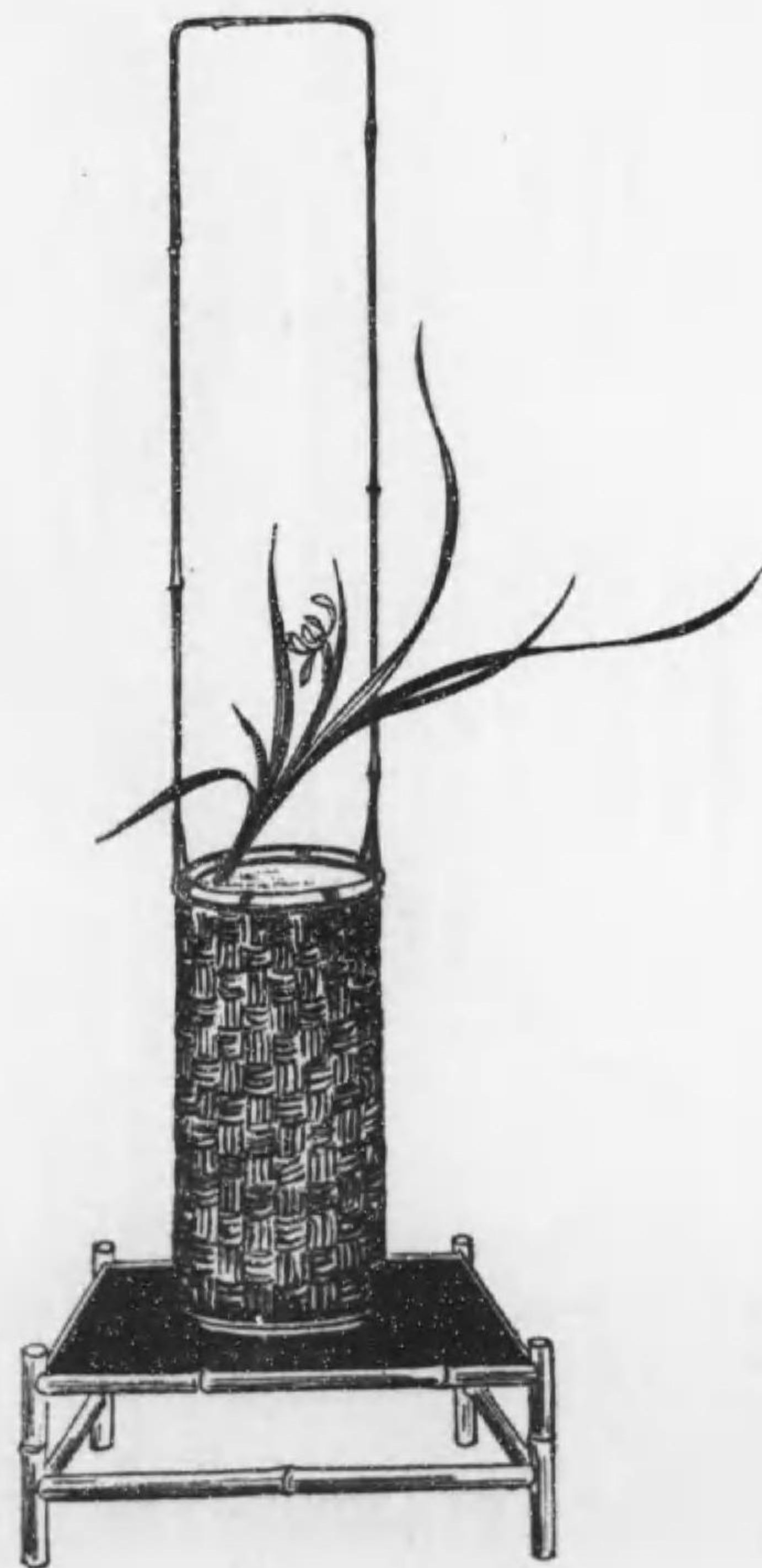
はいびやく杉、止光なかし

孟宗竹

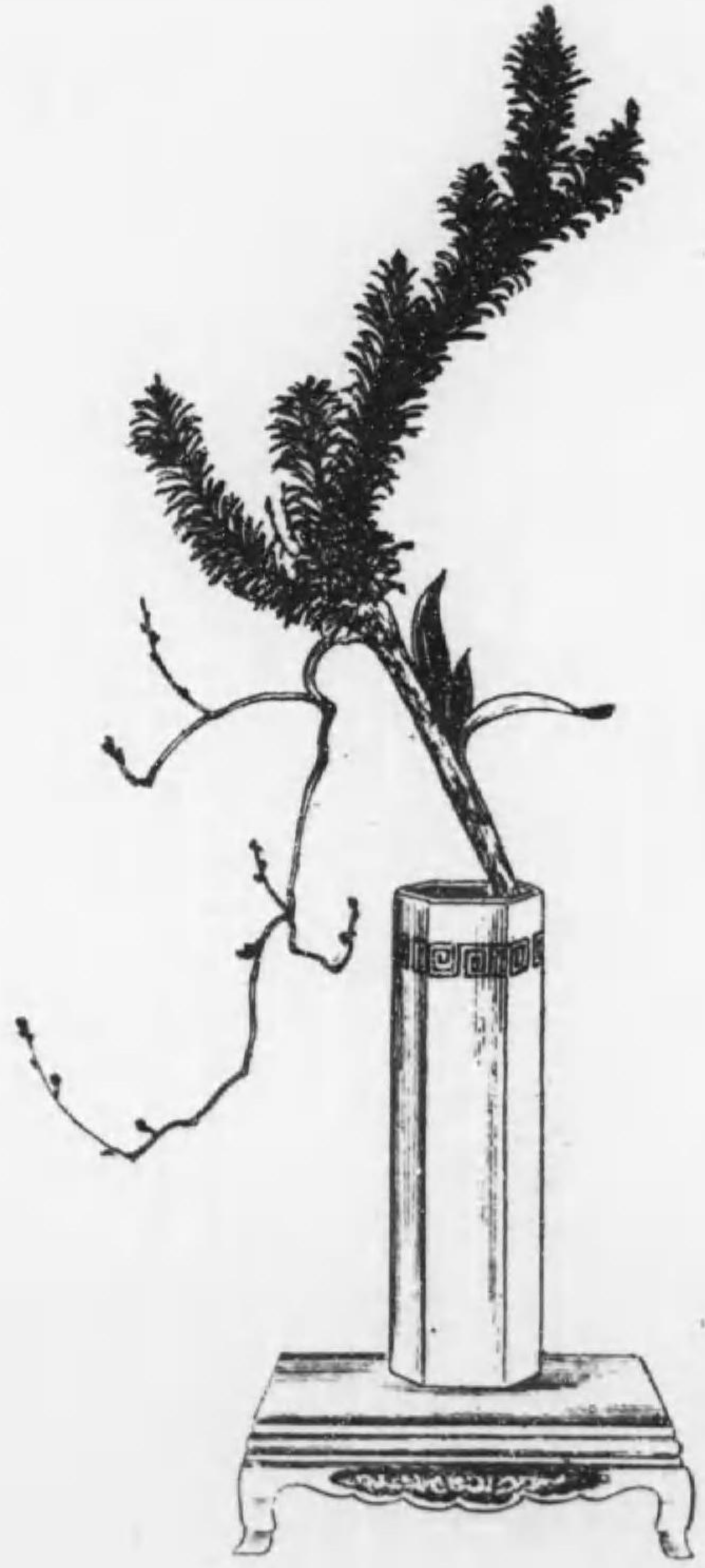




椿、万年青



蘭花



朝鮮牡丹。よはらばらん

黒牡丹



あきつばた



葉蘭、内用



はいびやく杉内用



芍薬



真 菖 蒲



つ
く
も



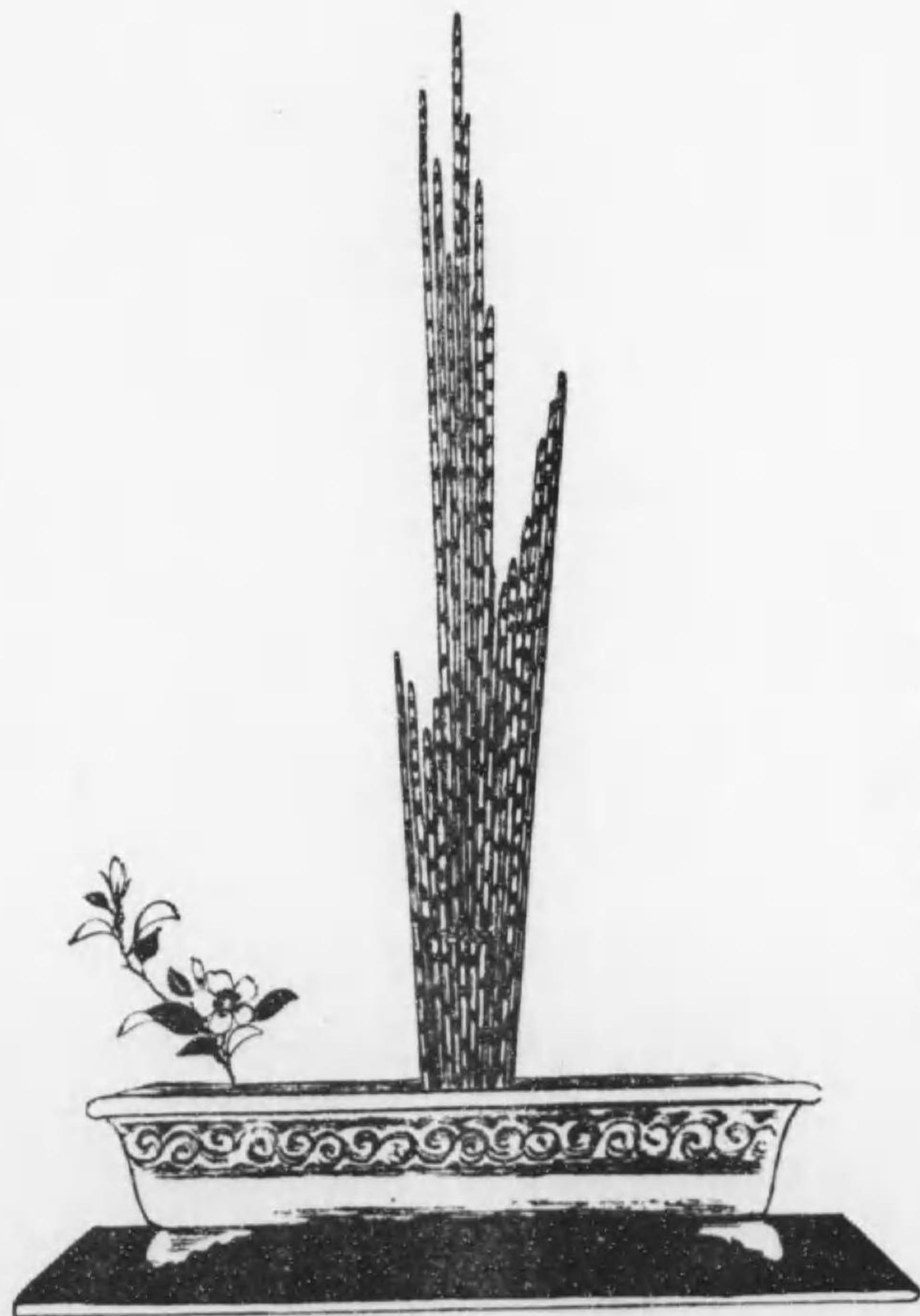
あ
わ
ほ
ね

あ
き
つ
ば
た
八
ッ
橋





糸杉、ばらん

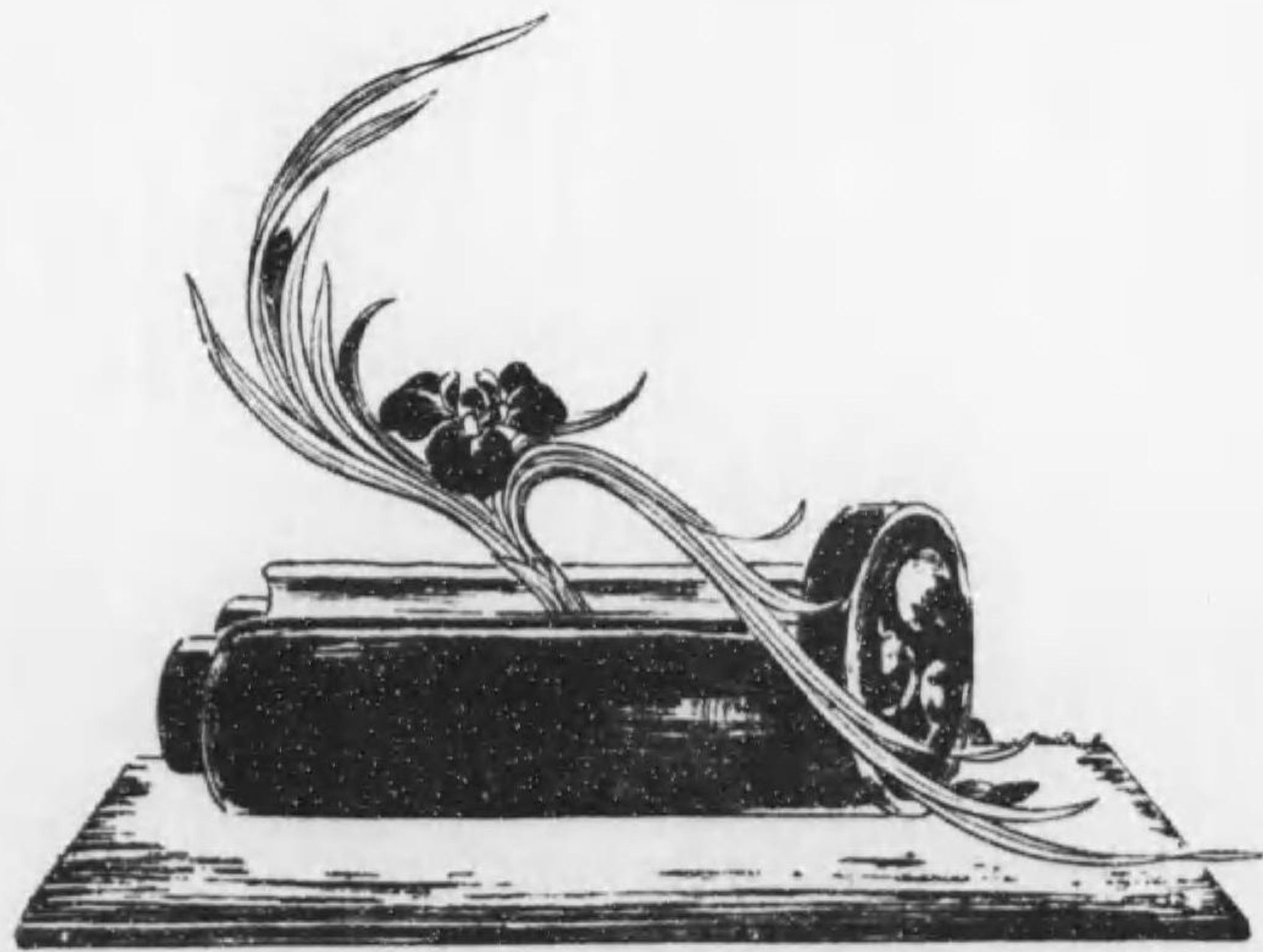


こくき、おんぴ草



中央卓下白椿

杜若据船



杜若大いけ



杜若大いけ

朝顔出船



朝顔出船



不老長春



ぎ
ぼ
し



ふとしい、ありあみ、杜若のぶこけ

示
E
E
E
E



夏
菊

未
生
正
洲
三



桔梗、なでしお

天
二
三
花
三

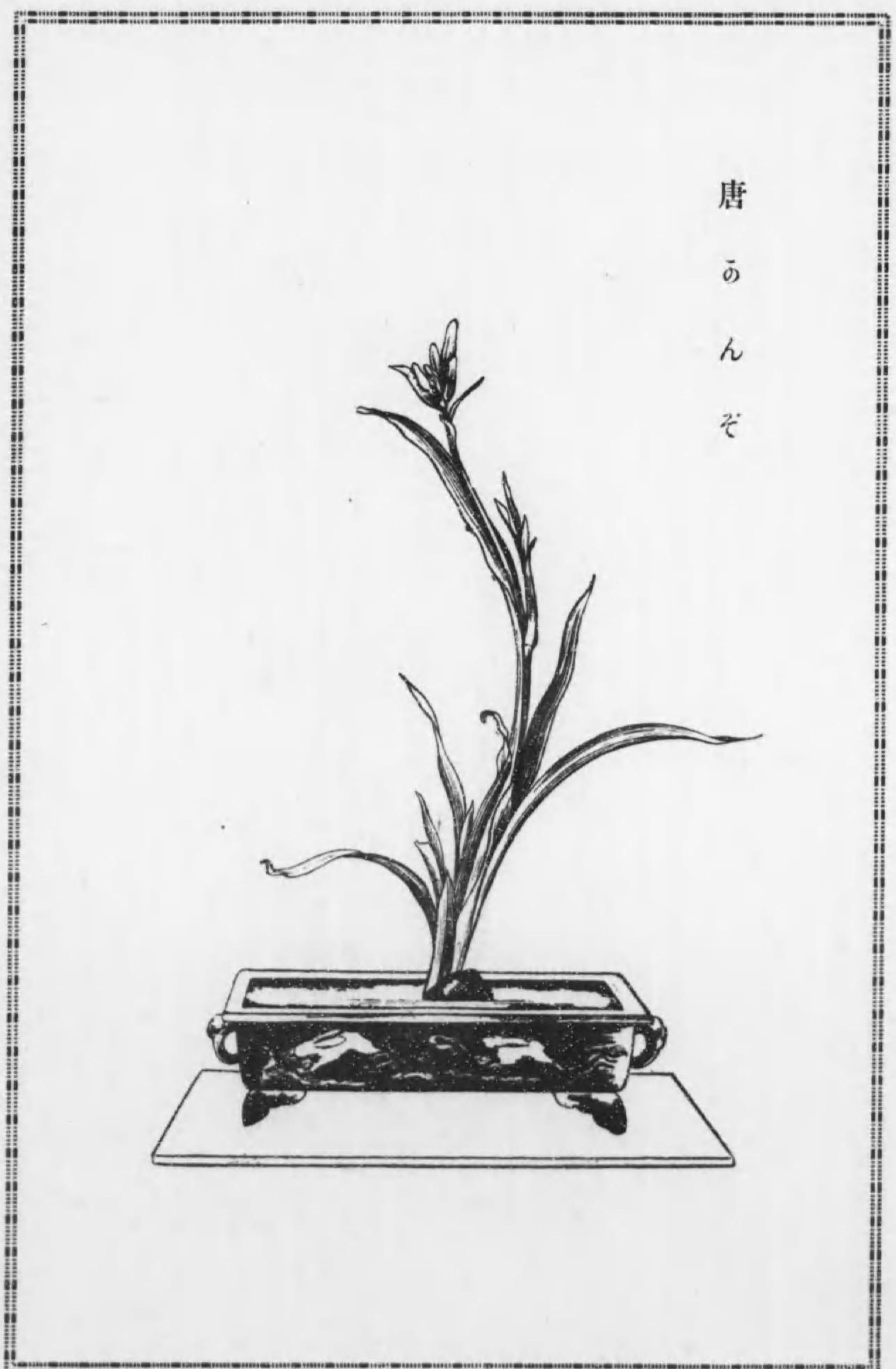


姫
菖
蒲

天
生
正
滿
三



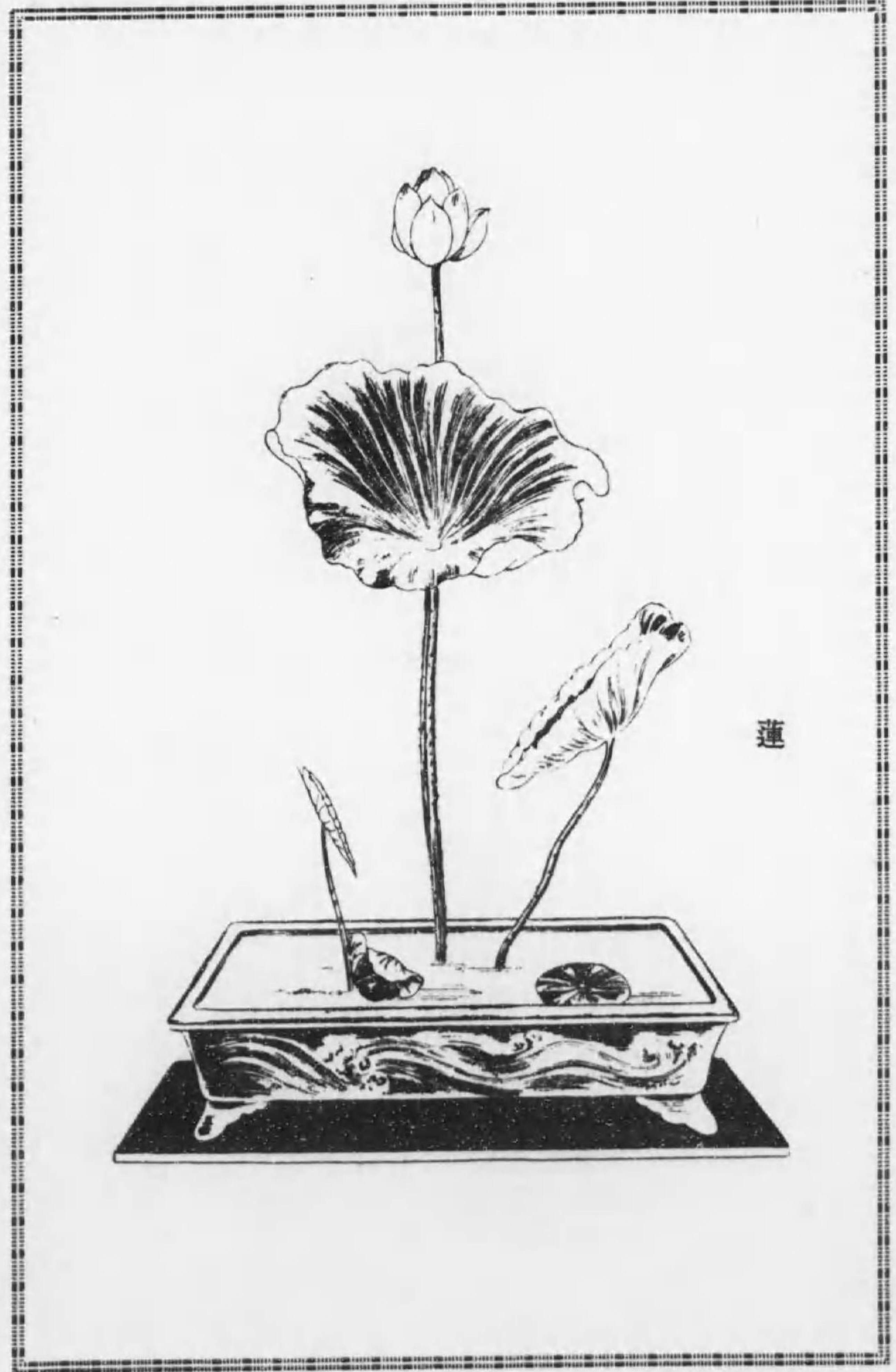
桔
梗



唐
あ
ん
ぞ



種撥もみじ



蓮



けいあん杉用ながし



志をん

つた、葉蘭、菊



何づま菊



びと止然なひし



白菊



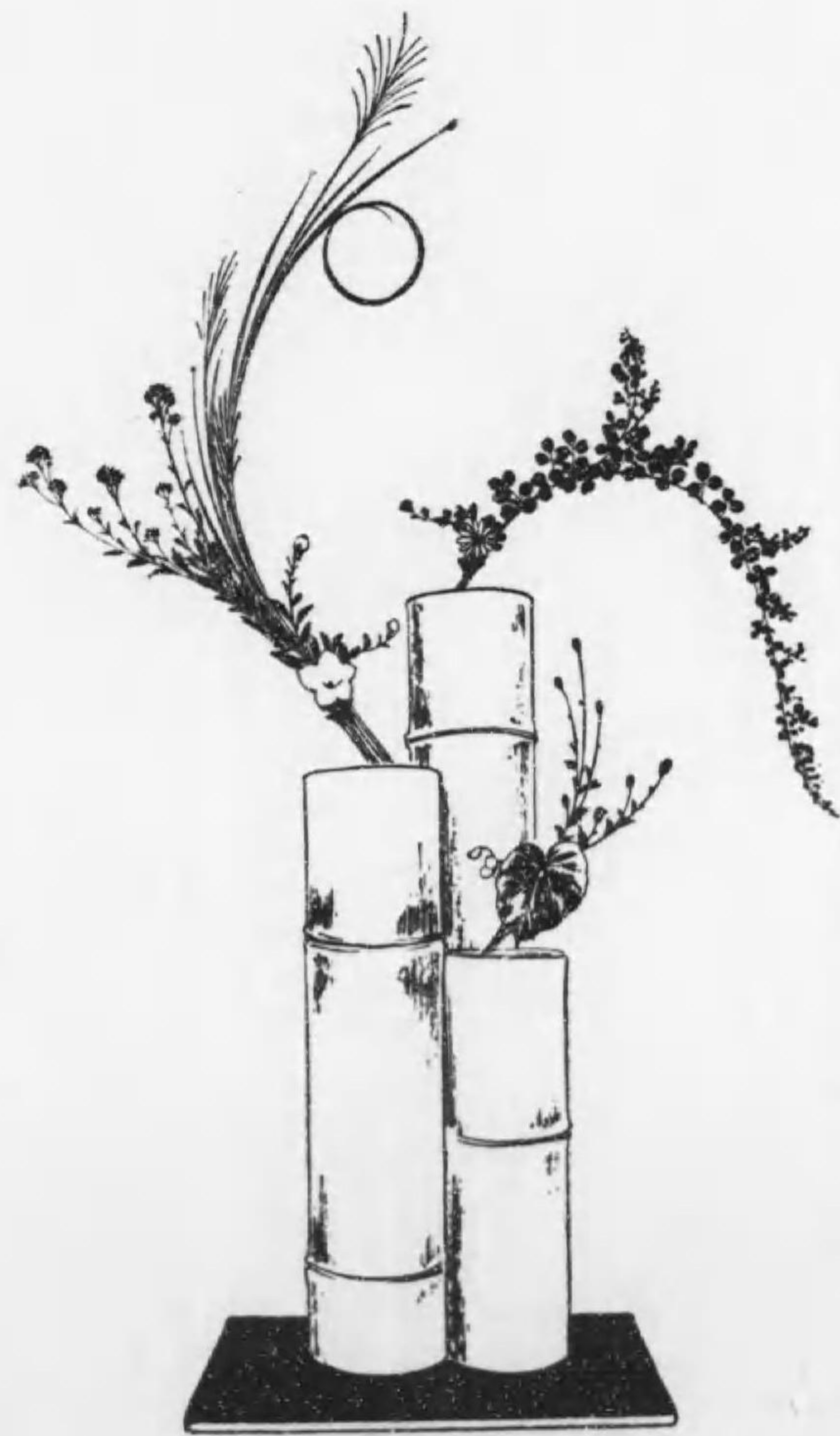
ねあ柳、玉こり



こりのぶこ



紅葉ちりげあき



秋七草

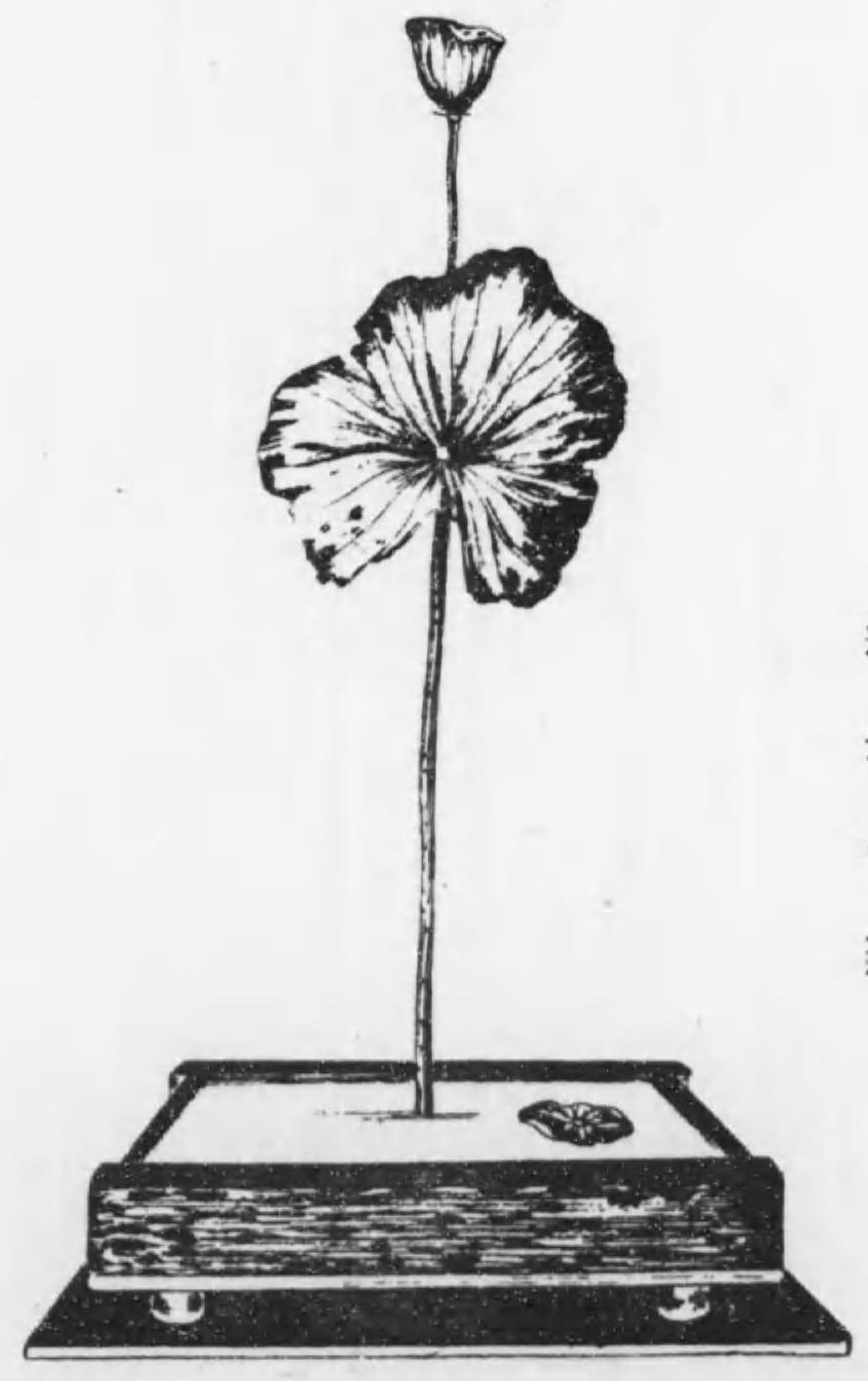


あはつ二葉一花



松、つた、万年青、野菊、白椿

過去の蓮



美及采此取象

現今花道、胆敷目其六
隆、
日、
者、予此、
一層道此為人、
人、
人、

草花以一瓶以插入一而
一之字一取一此小冊子
一作手名つけて美及此
一と梅の葉一真の者
字用と茶楊も花道に餘
尤今之幾千歳此子孫に達
一に芳葉此室に入
ひよと助とをん

蜀朶山栢深漫芳
佳期庭事也花々
佳人山上向花立
望却佳人天一方

末生家元 廣園高泰甫識
正流

283
17

大正十二年二月二十日印刷
大正十二年三月三十日發行



兵庫縣明石市忠度町

西谷廣圓齊



兵庫縣明石市鍛冶屋町

土屋嶺雪

兵庫縣神戸市多聞通四丁目

三入堂印刷所

兵庫縣明石市忠度町

西谷泰甫

發行所

印刷者

筆者

著作者

終

